

- 1 日 時 平成29年11月24日（金）
- 2 学 年 第6学年1組 38名 3組 38名
- 3 単元について

【単元観】

本単元は、学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年「C読むこと」の目標（3）「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受け、指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」及びオ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を中心に指導していく。登場人物の関係に注意して読み、心に残ったことをまとめる活動を通して、物語が自分に語りかけてきたことを自分の言葉で表現する力を付けることをねらいとした。

【教材の特性】

本教材は、海に生まれた少年「太一」が、父や与吉じいさの死を乗り越え、村一番の漁師に成長する姿を描いた作品である。
この教材の特性は4点ある。1点目は、各場面に時間を表す言葉があり、時間の経過から物語の展開をとらえやすいことである。2点目は、題名が物語の主題と関わる言葉であることである。3点目は、色や光を表す言葉を有効に使った描写や多彩な比喻表現が随所に見られることである。4点目は、思春期を迎える児童にとって、自己の生き方とリンクさせながら、生き方に対する考えを深めることができるということである。一人の人間の成長には、周囲の人間の存在が大きく関わっていること、また、主人公「太一」にとっての海やクエのように、人間の成長の過程には何らかの影響を持つ事物や事象があることに気付かせてくれる教材である。

【児童観】

観点	内 容	定着率
読む (読書事項)	○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることができる。	約76%
	○「主張」「根拠」「理由付け」を明確にして、自分の考えを持ち、表現することができる。	約45%
書く・対話する	【アンケート】 ○ペアやグループの友達と意見を交流することができる。	約89%
	○クラス全体の中で自分の考えを交流することができる。	約73%
	○友達の意見から自分の意見を広げたり、深めたりすることができる。	約63%
分析	全国学力・学習状況調査を基に分析すると、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる記述式の問題に対して、通過率が約45%と低く、誤答の主な原因としては、叙述と自分の考えとを結びつけることができていることが考えられる。また、無回答が約11%という結果から、読み取ったことを基に自分の考えを書くこと自体が難しい児童も多いと考えられる。 対話については、ペアやグループでは意見を交流できている児童がほとんどであるが、対話の質としては自分の考えを高められるものになっていない現状がある。	

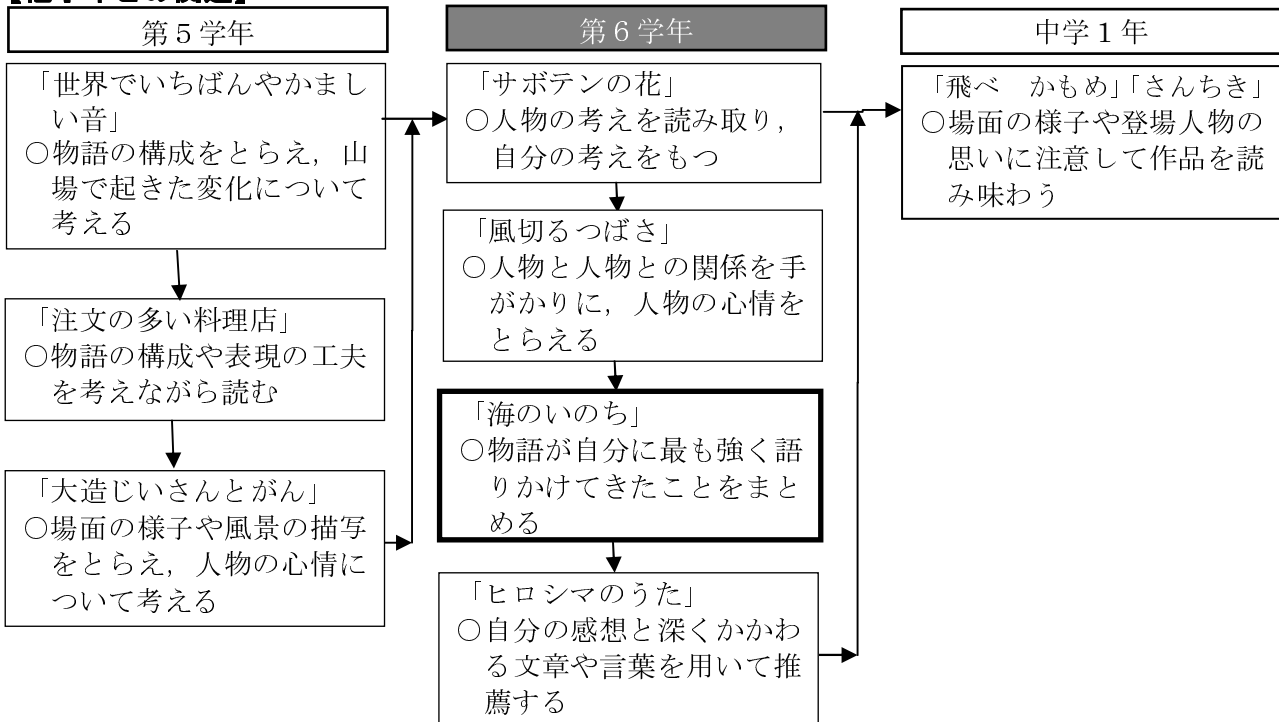
【育てたい資質・能力】

知識・技能	人物と人物との関係を手がかりにした中心人物の心情の変化や、作者のメッセージを強く意識させる表現や内容に気付く読み方の理解
思考・判断・表現	他のシリーズ作品の中心人物の心情の変化や成長などについて読み取り、比較・関連付けて、作者の見方・考え方を推論する力
主体的に学習に取り組む態度	作者の考え方や作品から伝わってきたことと、自己の生き方と結び付けて考え、他者との交流を通して、考えを広げたり深めたりしようとする態度

【指導観】

単元について	一時間ごとの授業について
<p>○単元のゴールとして、「立松和平『いのちシリーズ』を帯で紹介する活動」を設定する。帯を作成するために、何をどのように読めばよいのか考えたり、その作品が最も強く語りかけてきたことと自分の生き方を関連付けて考えたりできるようにする。</p> <p>○地域の書店と連携し、「『生き方を考えるこの一冊』を紹介する本の帯を作成してほしい。」という依頼文をお願いする。作成した帯を実際に書店で使っていただくことを単元のゴールに設定し、見通しをもたせることで、読みへの意欲を高めるとともに、児童の目的意識を明確にする。</p> <p>○単元の導入において、「海のいのち」は立松和平の「いのちシリーズ」7作品の一つであることを示し、「作者からのメッセージは何？」という視点を投げかけておくことで、目的をもって並行読書を行えるようにする。</p>	<p>○単元の中心となる言語活動として、人物関係シートを作成する活動を設定する。「太一の成長」に関する人物関係シート①、「瀬の主と出会った太一」についての人物関係シート②を作成させ、おとう、与吉じいさ、母などとの関係や、太一の海に対する思いやクエに対する心情の変化をとらえさせる。その際、叙述を基に考えることができるように、根拠となる叙述を書き抜かせ、考えと区別して表記できるようにする。</p> <p>○海や瀬の主などの描写と関連付けてそれぞれの登場人物の海に対する思いを関係図からとらえさせ、「海」を通して語られる作者のメッセージについて考えさせていく。</p> <p>○「海のいのち」という題名について考えさせ、作者のメッセージを「作者が伝えたかったこと」ではなく、「自分に強く語りかけてきたこと」として考えさせることで、幅広い考えが出せるようにしていく。</p>

【他学年との関連】



4 単元の指導目標

- 物語に関心をもち、物語が最も強く語りかけてきたことについてまとめ、自分の生活と関連させて考えたことを文章に書こうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎登場人物の行動や会話、情景描写から人物相互の関係や心情をとらえながら読み、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを基に、自分の生き方について考え、まとめることができる。(読むことエ)
- 同じ作者の他のシリーズ作品を読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むことオ)
- 比喩や情景描写などの表現の工夫に気付くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ))

5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
物語に関心を持ち、物語が自分に最も強く語りかけてきたことや、中心人物の姿と自分の生活を関連させて6年生としての姿について考えたことを基に、本の帯を作ろうとしている。	中心人物の変容を他の登場人物との関わりや情景描写と関連付けながら読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことや「いのち」について考えたことをまとめている。(エ) 立松和平の他のシリーズ作品を読み、比較・関連付けながら考えたことを話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	物語に使われている比喻や情景描写などの表現の工夫に気付いている。(イ(ケ))

6 単元のGOAL

パフォーマンス 課題	『生き方を考えるこの一冊』を紹介する本の帯を作成してほしい」という書店からの依頼を受け、立松和平「いのちシリーズ」を読んで「物語が最も強く語りかけてきたことを基に、「いのち」について考えたことを本の帯にまとめよう。		
評価 規 準	A	B	C
	登場人物どうしの関係の中で、中心人物の心情の変化や成長をとらえながら、物語が最も強く語りかけてきたことを基に、 <u>自分の生活や考え方と関連付けて、「いのち」について考え、自分にとっての作品の価値を踏まえながら文章にまとめている。</u>	登場人物どうしの関係の中で、中心人物の心情の変化や成長をとらえながら、物語が最も強く語りかけてきたことを基に、自分の生活や考え方と関連付けて、「いのち」について考えたことを文章にまとめている。	物語を読んだ感想のみを書いている。
<p>[パフォーマンスモデル] (B規準)</p> <p>帯の題名「少年は見た。命の輝きを、命と命の関わりを。」</p> <p>静一は引きこもりでしたが、祖父との山での体験を通して、自ら声を発する等、だんだんと心を開いていきました。それを通して、固まっていた人の心を和ませる自然の力、命の力を感じました。立松和平さんに「ぼくたちは、このような自然の偉大さによって生かされていて、その自然とともに生きていくために大切なことを考えなさい。」と言われているように感じました。</p> <p>たくさんの命のおかげで生かされていることを考えたら、この命を最大限大切にするために、目の前にある大変なことから逃げたりせず、自分にできる精一杯のことをやっていかなくてはいけないと思いました。</p>			

7 単元の指導計画（全12時間扱い）

次	学習活動（時数）	評 価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一	・「生き方を考えるこの一冊」に関する書店からの依頼文を読み、立松和平「いのちシリーズ」の本の帯を作る見通しをもつとともに、7つの作品について考える。（2）	○			・帯の役割をとらえ、帯を作る目的と視点をつかみ、自ら進んで本を選んで読書をしようとしている。 ・作者立松和平に関心をもっている。	行動観察
	・「海のいのち」の全文を読み、物語の展開をとらえ、初発の感想と考えたいことを考える。（1）	○			・物語に興味をもち、初発の感想と話し合いたいことを書いている。	ノート 行動観察
二	・村一番の漁師に成長した太一に影響を与えた人物をとらえるために、他の登場人物（「父」「与吉じいさ」「母」など）との関係を人物関係シート①に表す。（1）		○		・叙述を基に、太一が村一番の漁師に成長した理由を考えながら、他の登場人物との関係を書き表している。	人物関係シート 行動観察
	・太一が村一番の漁師に成長した理由を他の人物との関係と関連付けて考える。（1）		○		・太一に他の登場人物がどのような影響を与えたのかを読み取り、太一の成長の理由についてまとめている。	発言 ノート 行動観察
	・瀬の主と出会った太一の心情を考えながら、人物関係シート②を加える。（1）		◎	○	・瀬の主の様子や太一の行動から太一の心情を読み取り、図に書き表している。 ・比喩や情景描写などの表現の工夫に気付いている。	人物関係シート 行動観察
	・「クライマックス」について、「本当の一人前の漁師」を視点に考える。【3組本時】（1）		○		・登場人物同士の関係や情景描写をもとに、太一の心情の変化を考えまとめている。	発言 ノート 行動観察
	・結末部分を読み深め、「海のいのち」の本の帯を作る。（2）		○		・読み取ったことを基に、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、表現している。	行動観察 作品
三	・自分が選んだ立松和平「いのちシリーズ」の一作品の中心人物の心情の変化や変容を読み取り、物語が最も強く語りかけてきたことを帯の左側にまとめる。（1）		○		・読んだことを基に、中心人物の変容と他の登場人物の関わりや、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを自分なりの言葉でまとめている。	発言 ノート 作品
	・7つの作品から受け止めたことを基に、立松和平のいのちについてのメッセージを考える。【1組本時】（1）		○		・それぞれの作品に込められた作者からのメッセージについて考え、「いのち」に対する自分の考えを広げたり深めたりしてまとめている。	発言 ノート 行動観察
	・作者からのメッセージを受けて考えたことを、帯にまとめ、単元で付いた力を振り返る。（1）	○			・読み取ったことを自分の生活と関連させて考え、表現している。	作品 行動観察

【評価問題】（読み・書きの技能）

「きつねの写真」あまんきみこ（平成29年度全国学力・学習状況調査 B問題）

- 【物語の一部】から言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを60字～100字で書きましょう。

（解答例）「松ぞうじいさんの目に、なみだがきらりとひかりました」というところは、人間にうちとられてしまった仲間のきつねを思う気持ちが表れていると思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えました。（91字）

8-1 本時の展開 (3組)

(1) 本時の目標 (第7時/全12時)

登場人物の関係や情景描写を手がかりに、なぜ太一がクエをとらなかったのか考えることを通して、中心人物の心情の変化を読み取り、まとめることができる。

(2) 評価規準

登場人物同士の関係や情景描写をもとに、クエをとらなかった太一の心情にどのような変化があったのか考え、まとめている。

本時で目指す子どもの姿 (本時の goal)

太一はクエとの出会いを通して、海で生きるということはどういうことなのか見付け出したと思います。憧れていた父親の姿や与吉じいさに教わったこと、母の思い、その関わりの中で太一はクエと出会うまでに、海でどのように生きるべきか考えていたと思います。それでもとりたいたいと思っていたクエをとらなかったのは、太一がそのクエもこの海の大事なのちであり、全てを含めてこの海のつながりを守り続けていきたいと考えたのだと思います。

クエをとりたいという強い思いをもっていたと思うけれど、もりをつき出しても動こうとしない様子、そして穏やかな目で見つめているクエが瀬の主としての誇りをもっているように感じたのだと思います。だからこそ、そのクエをとってもいいのか何度も考え、この瀬の主もいっしょに海を守り続けていきたいと考えたのだと思います。

(3) 本時の学習展開

学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価 (評価方法)
1 これまでの学習から、太一のクエに対する思いを出し合う。	○ついに父を殺したと思われるクエに太一は出会うことができましたね。このときの太一はクエに対して、どのような思いをもっていたのでしょうか？ ・クエをとることで、父の仇を討ちたい。 ・父を破ったクエをとってこそ、本当の一人前の漁師になれる。 ・どうしても、このクエをとりたい。 ○なぜ、太一はそのクエを殺さなかったのかな？	◇これまでの太一がクエをとりたいと強く思っていたことを想起させ、太一のとった行動とのズレに視点をあてる。
なぜ太一はクエをとらなかったのだろうか？		
2 人物関係シートをもとに自分の考えをもつ。	○太一がクエをとらなかったのはなぜだと思いますか。 ・大きくて堂々としているクエを見て、怖くなったのだと思います。(関連付ける) ・もしもクエをとることに失敗すると、母が悲しむと思ったからだと思います。(関連付ける) ・クエが父に見えたからだと思います。(関連付ける)	◇登場人物同士の関係や情景描写を手がかりに考えさせる。

<p>3 クエを討たなかった太一は、本当の一人前の漁師といえるのか考える。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>◆人物関係や情景描写から中心人物の心情の変化を読む</p> <p>5 振り返りを書く。</p> <p>6 次時の学習に見通しをもつ。</p>	<p>○クエをとらなかった太一は、<u>本当の一人前の漁師</u>といえますか？</p> <p>【本当の一人前の漁師ではない。】</p> <p>「泣きそうになりながら」というところから、太一はクエをとることが本当の一人前の漁師だと考えていると思います。（関連付ける）</p> <p>【一人前の漁師だ。】</p> <p>太一は与吉じいさに、海で生きるためには自分の思いのままに魚をとってはいけないということを知り、そのことがクエと出会ったときの太一の考え方につながっていると思います。（関連付ける）</p> <p>クエを殺さないですんだということは、迷いに迷った上でとらないことが海のいのちを大切にすることだと考えたと思います。（比較する）</p> <p>○クエをとらなかった太一の何が変わったのか、まとめましょう。</p> <p>・クエの堂々とした様子からクエをとるべきか悩み、そしてとらないことを選択した太一は、クエも含めて全てがこの海であり、その海を守り続けたいと考えるようになったのだと思います。</p> <p>○学習の仕方や、自分の考えを深めてくれた友達の意見について振り返りましょう。</p> <p>○次の時間は、結末部分を読み深め、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、本の帯を作りましょう。</p>	<p>◇「この魚をとらなければ本当の一人前の漁師になれないと泣きそうになりながら思う」という叙述に着目させ、葛藤する太一の心情を読み取らせる。</p> <p>◇「瀬の主を殺さないですんだ」という叙述に着目させることで、殺さないという選択をする太一の強い思いを考えられるようにする。</p> <p>◇ペア活動を取り入れることで、友達の意見からも自分の考えを深められるようにする。</p> <p>◎登場人物同士の関係や情景描写をもとに、クエをとらなかった太一の心情にどのような変化があったのか考え、まとめている。（発言、ノート、行動観察）</p> <p>◇結末部分を読み深め、物語から強く受け止めたことを帯にまとめるという見通しをもたせる。</p>
---	--	--

(4) 板書計画

太一は一人前の漁師？


・自分勝手に魚をとらなかったから。

・殺せなかったのではなく、殺さなかったから。

【一人前の漁師ではない】

・クエをとれていないから、父をこえていない。

この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う



太一の〇〇が変わったのだと思います。

ま

母

クエをとりに行かないで、太一まで死なないで

与吉じいさ

千びきに一びきでいい欲を出してはいけない海を大切にしたい

おとう

るエコ太いでのうか
なをの一 いぞちた
よをのー いぞちた
とクは なんはき

瀬の主

穏やかな目
動かない
百五十キロ
越え

海のいのち 立松和平

なぜ太一はクエをとらなかったのだらう？

8-2 本時の展開（1組）

（1）本時の目標（第11時/全12時）

7つの作品から受け止めたことを基に、作者のメッセージについて話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

（2）評価規準

それぞれの作品に込められた立松和平からのメッセージについて考え、「いのち」に対する自分の考えを広げたり深めたりしてまとめている。

本時で目指す子どもの姿（本時の goal）

私は、立松和平から「自然に向き合う・命と向き合う」というメッセージを受け止めました。これから自然の中の命に支えられていることに感謝し、「ありがとう」という気持ちで接していこうと思います。

私は、立松和平から「自然と共に生きる」というメッセージを受け止めました。生きているものはみんな自然の中で命をいただいて生かされている、ということを感じたので、自然を大切にしたり、尊重したりして生きていけるようにしたいと思いました。

（3）本時の学習展開

学習活動 ◆指導内容	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 立松和平のいのちシリーズ7作品を読んで感じたことを想起し、本時のめあてを立てる。	○「海のいのち」以外のいのちシリーズの作品を読んでどんなことを感じましたか。 ・他の作品にも、立松和平さんのメッセージがありました。 ・どの作品にも、立松さんの命に対する考えが込められていると思いました。 ・伝えたいことは同じなのではないかと思いました。	◇それぞれの作品から受け止めたことには共通のメッセージがあるのではないかと考えられるようにし、めあてにつなげる。
いのちシリーズから伝わる立松和平のメッセージは何？		
2 本の帯を交流し、作品ごとに受け止めたことを話し合い、キーワードにまとめる。	○それぞれが受け止めたことを基に、作品ごとのキーワードを考えよう。 (山のいのち) (川のいのち) ・自然の力 ・偉大な自然 ・「生きているものは悲しいなあ。」 ・全部ぐるぐると回っている (木のいのち) ・ずっとそこにあるいのち ・千春にとってのけやき ・人々にとってのけやき ・けやきの姿と向き合う (街のいのち) ・母の命と向き合う ・季節といちょうの木 ・街にあふれるいのちの源 (田んぼのいのち) ・自然と共に生きる ・自然の中で生きる ・自然の中で成長する ・一粒から百八十粒 ・小さな命をふやす ・自然は生きている (牧場のいのち) ・受け継がれるいのち ・新しい命の誕生 ・遠い森に帰る	◇同じ作品の帯を作成するメンバーでグループになり、帯に書き表した一文を交流し、受け止めたことをキーワードに表せるようにする。

<p>3 それぞれの作品ごとのキーワードを基に、立松和平のメッセージについて話し合う。</p>	<p>○それぞれの作品ごとに話し合ったことから、<u>どんなことに気付きましたか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • どの作品にも自然といのちの関係が書かれている。(比較する) • いろいろな命についての物語だけれど、みんな命がつながっているということが伝わってくる。(関連付ける) 	<p>◇気付いたことの「共通点」を中心としてまとめていけるよう、方向性をもたせる。</p>
<p>4 話し合ったことを基に、自分に響いたこと、自分の中で変わったことについてまとめる。</p> <p>◆作品から受け取ったことを自分の生活と関連させて読む</p>	<p>○立松和平「いのちシリーズ」を読むことによつて、<u>あなた自身、どんな考えがもてるようになりましたか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 今まであまり考えてこなかった自然や命について、「ありがとう」という気持ちで接していけるようにしたい。 • 自分も自然の中で命をいただいて生かされている、ということを感じたので、自然を大切にしたり、尊重したりして生きていけるようにしたいと思った。 	<p>◎それぞれの作品に込められた立松和平からのメッセージについて考え、「いのち」に対する自分の考えを広げたり深めたりしてまとめている。(発言、ノート、行動観察)</p> <p>◇「例えば？」と問いかけることで変化したことのみでなく、これからの行動にも触れられるようにする。</p>
<p>5 振り返りを書く。</p>	<p>○今日の話合いについて振り返りましょう。</p>	<p>◇他の作品のグループの意見を聞いたり話し合ったりすることで、自分の考えがどう変化したかを振り返りの視点とする。</p>
<p>6 次時の学習を見通す。</p>	<p>○今日考えたことを本の帯に書き加えて、本の帯を完成させよう。</p>	

(4) 板書計画

